

年度 2007 学期 後期	曜日・校時 金 2	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	日本国憲法(基本的人権と民主政治の仕組み) The Constitution of Japan (Fundamental Human Rights and Frames of Democratic Government)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 人文・社会科学科目		
担当教員(科目責任者)/Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 田中謙/Eメールアドレス: tanaka-k@nagasaki-u.ac.jp/研究室: 経済学部本館 3 階 328 号室 / オフィスアワー: キャンパスが異なるということもありますので、原則として、講義終了後を予定していますが、質問等につきましてはメール等でいつでもお問い合わせください。			
担当教員(オムニバス科目等)			
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: みなさんはすでに中学・高校で「日本国憲法」についての簡単なイメージをもっていると思いますが、大学で学ぶ「日本国憲法」は社会科の延長ではありません。批判精神を養う学問です。したがって、憲法の条文などを「覚える」のではなく、さまざまな憲法上の問題に対して「何が問題なのか?」「どうすべきなのか?」など、「考える」ことを心掛けてください。私も、「教壇の上から教える」という姿勢ではなく、「一緒に考えてみよう」という姿勢で講義したいと考えています。 授業方法: 毎週毎の授業内容の計画に従って、講義形式で進めます。 授業到達目標: それまで疑問を持たなかった物事に対して疑問を持つとともに、その物事に対して批判的な視点から「考える」能力を身に付けることを授業到達目標とします。また、教職を目指している学生に対して日本国憲法の単位を取得することが法律で要求されていることを踏まえると、「教職を目指している学生が最低限身につけなければならないレベルが単位取得の要件であること」が、社会的に要求されていると考えています。なお、教職を目指している学生と教職を目指していない学生とを区別して評価するのは現実的に難しいので、教職を目指していない学生にも同じレベルを要求します。			
授業内容(概要)/授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 講義では、「基本的人権」及び「民主政治の仕組み」について毎回身近な問題を取り上げ、さまざまな憲法上の問題を提起したいと考えています。その際、教職を目指している学生が少なくないことを踏まえて、教職を目指している学生を想定した話題を提供できればと考えています。  第 1 回 ガイダンス [21 世紀憲法学へのキーワード] 第 2 回 パーマをかけたら退学か? [髪型の自由と校則: 自己決定権] 第 3 回 他人のタバコの煙は吸いたくない! [喫煙権と嫌煙権: 自己決定権] 第 4 回 男女平等は男女無差別か? [別性・再婚の自由: 法の下での平等] 第 5 回 「君が代」は思想の押し付けか? [思想・良心の自由] 第 6 回 マニュアル本の大流行! [表現の自由] 第 7 回 銭湯の楽しみ!? [経済的自由] 第 8 回 生活保護費は貯金できるのか? [生存権] 第 9 回 憲法上、死刑は許されるのか? [人身の自由と適正手続き] 第 10 回 国際平和のために私たちは何ができる? [平和主義] 第 11 回 国際平和のために私たちは何ができる? [平和主義] 第 12 回 両院は車の両輪 [国会] 第 13 回 黒衣の天使? [裁判所] 第 14 回 首相の選び方 [内閣] 第 15 回 定期試験			
キーワード			
教科書・教材・参考書	テキストは用いず、毎回、授業計画にそったプリント資料を配布します。 特記事項: できる限り、六法(デイリー六法、コンパクト六法、ポケット六法等)を持参してください。お金がかかる話ですので、絶対に持参してくださいとは言いませんが、六法を持参していることを前提に講義は進めます。		
成績評価の方法・基準等	定期試験 100% (定期試験の結果のみで評価します) 特記事項: 定期試験においては、持込は一切不可です。		
受講要件(履修条件)	特にありませんが、教職を目指している学生を想定して講義を進めます。また、評価に際しても、教職を目指している学生が最低限身につけてほしいというレベルを要求します。教職を目指していない学生についても同じレベルを要求しますので、ご注意ください。		
本科目の位置づけ/学習・教育目標			
備考(準備学習等)			